

特定事業者排出量削減報告書

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	京都市上京区河原町通広小路上の梶井町465						
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	公立大学法人 理事長 荒巻慎一						
特定事業者の主たる業種	大学						
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））						
計画期間	平成20年4月～平成23年3月						
基本方針	京都府公立大学法人では、法人化前から両大学において府の1機関として府の策定した計画に基づいてエコオフィス活動を中心とした温室効果ガス削減の取組を推進してきたところであるが、法人化後も引き続きエコオフィス活動の徹底や施設の環境性能向上等の取組を進め、平成22年度に平成17年度比で温室効果ガス5%の削減を図る。						
推進体制	環境マネジメントシステム名称	京都府環境マネジメントシステム					
	適用範囲	京都府立医科大学（附属病院含む） 京都府立大学					
	取得年月日	平成19年11月1日					
具体的な取組及び措置の状況	年度	設備、対象、工程等	措置内容				
	平成20年度	京都府立医科大学 京都府立大学	空調設備の稼働時間短縮・設定温度厳守、附属病院空調熱源の機能回復改修 空調設備の稼働時間及び設定温度厳守				
	平成20～22年度	全組織	エコオフィスの徹底、環境性能の向上				
	平成21～22年度	京都府立医科大学	附属病院空調機・送風機のVベルトを省エネタイプに交換することにより、電力負荷の低減を図る。				
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） （19）年度 （二酸化炭素換算）	目標年度（計画） （22）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （計画）	報告年度（実績） （21）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （実績）	
	A 事業所等排出区分	19,758.0 t	18,164.0 t	-8.1 %	18,918.2 t	-4.3 %	
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%	
	C その他排出区分	1,125.0 t	1,125.0 t	0.0 %	527.0 t	-53.2 %	
	排出合計	20,883.0 t	19,289.0 t	-7.6 %	19,445.2 t	-6.9 %	
実績に対する自己評価	京都府立医科大学及び京都府立大学において、エコオフィスの徹底や、各部屋の適正な冷暖房管理等を行い、大幅に削減できた。また、京都府立医科大学附属病院において空調設備を省エネタイプに交換し、電力負荷の低減を図ったことにより、一層削減することができた。今後も、組織全体において、継続して取組を推進していく。						
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）
		二酸化炭素換算 （ ）			%		%
		二酸化炭素換算 （ ）			%		%
		二酸化炭素換算 （ ）			%		%
実績に対する自己評価							
地球温暖化対策貢献量	対策等の区分	目標年度（計画）			報告年度（実績）		
		取組量等 （二酸化炭素換算）			取組量等 （二酸化炭素換算）		
	森林の保全及び整備	(整備面積) ha	(吸収量) t		(整備面積) ha	(吸収量) t	
	市内産の木材の利用	(利用量) m <sup>3</sup>	(削減量) t		(利用量) m <sup>3</sup>	(削減量) t	
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	(発電量) kwh	(削減量) t		(発電量) kwh	(削減量) t	
		(熱供給量) GJ	(削減量) t		(熱供給量) GJ	(削減量) t	
	グリーン電力の購入	(購入量) kwh	(削減量) t		(購入量) kwh	(削減量) t	
	家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入	(購入量) t	(削減量) t		(購入量) t	(削減量) t	
	削減量等合計			t		t	
	地球温暖化対策に資する社会貢献活動						
特記事項							

注 1 該当する□には、レ印を記入してください。  
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のそれぞれの年度をいいます。  
 3 「事業所等排出区分」とは本市の区域内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を本市の区域内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の本市の区域内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。  
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（製造品出荷額、床産産額、走行距離等）を記入してください。  
 5 「地球温暖化対策貢献量」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度（計画）」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度（実績）」欄には実績の累計を記入してください。  
 6 「地球温暖化対策に資する社会貢献活動」には、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献や地域における環境教育の実践活動など、地球温暖化対策や環境負荷の低減につながる活動を記入してください。  
 7 「特記事項」には、1990年を基準とした排出量の対比や、温室効果ガス排出量の算定に当たって独自の係数を使用した場合など、説明を要する事項について記入してください。

